

事業番号3-18 (1) 大型放射光施設SPring-8
事業番号3-19 (1) (独) 海洋研究開発機構 (深海地球ドリリング計画)
事業番号3-19 (2) (独) 海洋研究開発機構 (地球内部ダイナミクス研究)
事業番号3-21 若手研究者育成
事業番号3-34 (2) 衛星打上げ (平成24 年度以降打上げ分)

2009 年11 月23 日

日本学術会議 IMA分科会

委員・オブザーバー一同

大谷栄治 (委員長)、富樫茂子 (副委員長)、塚本尚義 (幹事)、永原 裕子、高橋 栄一、山中 高光、赤荻 正樹、赤井 純治、榎並 正樹、鍵 裕之、佐藤 努、杉山 和正、塚本 勝男、留岡 和重、松井 正典、松原 聡、藤野 清志、土山 明、清水 正明、宮脇 律郎、

日本学術会議 IMA分科会は、私たちが深く関連するSPring-8、深海地球ドリリング計画、地球内部ダイナミクス研究等を始めとする科学技術研究開発事業および各種競争的資金の縮減の仕分け結果を拝見して、わが国の存亡に関わる重大な危惧を抱くにいたしましたので、その評決の実施を見直していただくよう、強く意見表明します。

事業仕分けでは、大型研究開発プロジェクトが実践的若手研究者の雇用と育成という重要な機能を果たしている点を見落としとしています。今回の予算の削減がそのまま実行されれば、プロジェクトを実質的に支えている任期付研究員 (博士号を持つ若手研究者) が大幅に削減されることとなります。これらのプロジェクトにかかわる任期付き研究員の給与は、研究費から支出されているからです。例えば、事業番号3-19 (2) (独) 海洋研究開発機構 (地球内部ダイナミクス研究) においては、研究費の約65%が任期付き研究者の雇用費であり、今回の評決が実施されれば、85名を超える任期付き研究員が失職します。世界を先導する優れた成果を挙げ、世界の科学に貢献している優れた実績をもつ研究組織や大型研究開発プロジェクトを内外の専門家の信頼できる評価なしに、評価基準の不明確な拙速な査定のもとで予算を停止し、多くの若手研究者を失職させることは、「科学技術創造立国」とされる我が国の基本理念とそれを実現するための研究者育成政策に反します。特別研究員事業など若手育成事業という科学技術の未来にかかわる根幹の事業を、費用対効果という短期的視点による仕分けすることに強く反対し、今回の不適切な施策を採用しないよう求めます。

大型研究開発プロジェクト事業の見直しは、財政面も含めて、国際的な専門家による評価を基に慎重に進められるべきものであり、根拠不明な縮減や廃止

は、わが国の科学・技術の発展の崩壊を導くこととなります。今回の拙速な評価は、科学技術創造立国の百年の計を一時間で崩壊させかねない暴挙です。特に、3-18(1)大型放射光施設SPring-8 は、米国のAPS、欧州のESRF と並び世界のこの分野の科学の3極の一つとして世界を先導する成果を挙げています。また、事業番号3-19(2) (独)海洋研究開発機構(地球内部ダイナミクス研究)(IFREE)は、先端的研究を先導する基礎科学の地球科学のセンターの役割を担ってきました。このIFREEの研究水準は世界をリードするものであり、我が国を代表する研究組織となっており、組織の評価も、基礎研究として世界最高水準の研究機関として世界から認められてきました。

「はやぶさ」「かぐや」など我が国の惑星探査は、日本独自の特徴をもった世界を先導する他国に真似のできないユニークな成果を挙げました。事業番号3-34(2)衛星打上げ(平成24年度以降打上げ分)は、これまでの優れた日本の惑星探査・天文観測衛星の到達点を引き継ぐ重要な衛星打ち上げ計画であるにもかかわらず大幅に削減されようとしています。

このように世界を先導する優れた成果を挙げ、世界の科学に貢献している優れた実績をもつ研究機関や研究計画を国際的な専門家の評価なしに、不十分な拙速な査定のもとで予算の停止および大幅削減することは、わが国の科学と技術の成果の崩壊をもたらす危険な行為です。昨年には、多くの日本人ノーベル賞受賞者によって国民が元気づけられ、すぐには成果の出ない基礎研究においても継続的な研究支援の重要性が、受賞者自身も含め広く国民によって語られてきました。今回の仕分け作業は、このような科学技術を大切にしようという国民の共通の願いを無視する不適切な対応です。以上の理由で短期的な費用対効果になじまない科学技術予算に関する今回の事業仕分けの評決に反対し、その見直しを強く求めます。